



岡山県聴覚障害者センター広報紙

センターだより VOL.73

2023年・秋号

表紙写真：「のびのび子どもひろば」で消防車の見学をしました

今号のピック

スマホ教室の開催

■ 所長 西條保幸

デジタル化の波が押し寄せてきました。スマホ、タブレット、ペイペイカード、マイナンバーカード。センターでもICT技術の活用を図るべく、電話リレーサービス・遠隔通訳サービス・NET119などの研修会や利用登録会などを開催しています。しかし、そもそもスマホを使えなければこれらICTのメリットは享受できません。そこで、遅ればせながらセンターでもスマホ教室を開催することにしました。

高齢者にとってスマホとは

私たち高齢者にとってもスマホは便利なツールです。しかし、利用は非常に限られた機能に限られ、スマホで発生する様々な事象やトラブルにはほとんど対応できないというのが現実だと思います。例えば、遠隔通訳をやっている、チャット画面に変更したいとき、音声が出なかったり画面が小さすぎたりした場合など、自分で操作して修正する必要がありますが、これが非常に難しい（と言うよりは不可能）。従って、デジタル技術（スマホなど）には、とてついでに行けないと感じるのが正直なところだと思います（もちろん得意な方は除きます）。

スマホとの付き合い方

とはいえ、この先デジタル化はますます進むのでスマホとの付き合いは止める訳にはいきません。スマホの入門書や実用書はとてついでに読む気になれませんので、とにかく毎日スマホを使って、分からない事象やトラブルに遭遇したときは、若い人に聞いたりネット検索したりして対処法を身につけていく、というやり方で良いんだと思っています。たいいていの方も同じだと思います。

電話リレーサービス登録で思ったこと

電話リレーは令和3年7月から公共インフラ化され、モデルの頃より一層便利なサービスが始まりました。利用するには登録作業が必要ですがスマホで登録するのは結構難しいと感じました。具体的には、①アプリのダウンロード ②身障者手帳のアップロード ③支払方法の選択 の三箇所が関所です。①はスマホに新しいアプリを導入するには必須のやり方です。電話リレーサービスアプリもたくさんあるアプリの一つですが、スマホのPlayストア（又はAppStore）から入手します。②はカメラ起動が必要ですが、カメラを起動させるとこれまでの入力事項がなくなってしまうのでは、とってしまいます。③は払込票を選択すれば簡単です（そこで登録作業は完了です）。ただし、毎月、金融機関に行って振込票で支払う面倒さがあります。キャリア決済を選択すると、毎月のスマホ料金に併せて支払できるので便利ですが、ドコモの場合はDアカウントのID、auの場合はauIDを入力する必要があります。平素からアカウントなどという言葉とは無縁の私には、これらの入力は高いハードルに思われました。

スマホ教室の利用

9月10日に1回目の教室を開催し4名の方が参加されました。内容は初心者向けで、概ね分かり易かったとの感想をいただいています。電話リレー・遠隔通訳サービス・NET119を楽々使いこなすために一緒にスマホを勉強してみませんか。次回は10月29日です。



第1回「スマホ教室」を開催しました

センターの新しい取り組みとして、9月10日（日）研修室で、スマホ教室を開催し、4人の参加がありました。初心者対象の入門編で、講師はセンター職員が務めました。最初に、ご自分のスマホがアンドロイドかiPhoneかを確認。続いて、ホーム画面への戻り方や文字入力などの基本操作、QRコードの読み取りやインターネット検索などを行いました。少人数なので、質問にもその都度お答えしながらゆったりすすめることができました。同じ内容で10月29日に開催します。ぜひご参加ください。



次回は
10月29日（日）
14:00～15:30
申込受付中！

研修会のご報告

1. 電話リレーサービスを知って登録しよう！ _____ 電話リレーサービス地域講習会

8月20日（日）研修室で、電話リレーサービス地域講習会（日本財団電話リレーサービス主催）を開催し、13人の参加がありました。今年で3回目となりますが、日本財団のろう講師がオンラインではなく対面で講習するのは初めて。サービスの仕組みや利用料金などの説明や質疑応答がありました。



利用登録をして専用電話番号をもらえるまで通常1週間～10日かかりますが、今回は日本財団スタッフがその場で本部とやりとりしてすぐに電話番号をもらえたので、手間が省け利用者から好評でした。

センターでは、今後も利用登録会を行います。
10月16日（月）から当面の間、毎週月曜日 13:30～15:30です。まだ登録されていない方はぜひお越しください。



2. 避難の記録から得たこれからの備えに必要なこと _____ 災害救援専門ボランティア研修会

9月24日（日）きらめきプラザ401会議室で、災害救援専門ボランティア研修会を開催し、66人の参加がありました。「災害時に手助けが必要な方々の避難の記録から得たこれからの備えに必要なこと」というテーマで、岡山県立大学保健福祉学部の佐藤ゆかり先生に講演いただきました。講師は、西日本豪雨で浸水とアルミ工場爆発という二重の災害にあいながらも一人の犠牲も出さなかった総社市下原地区について、要配慮者の避難行動に着目した研究をされています。下原地区の要配慮者とその家族に聞き取り調査を行い、見えてきた傾向を説明されました。「危険だと認識でき、自分で避難できることを他者と共有している人」は早めに避難しますが「危険だと認識できず、自分で避難できると過信していた人」は避難が遅れます。つまり、いくら避難情報が出されても本人が危険だと認識しなければ避難しないし、いつでも避難できると過信して実際に危険な状況になってから避難しようとしても思うように避難できないことがあります。避難が遅れる要因は要配慮者一人ひとり異なるので、それに合わせた周囲の働きかけが必要ですし、個別避難計画を策定するにあたっては考慮しなければならないとお話がありました。

講演後に、遠隔通訳の実施訓練をしました。401会議室を避難所と想定し、センター研修室に通訳ブースを設置。できるだけ大勢の通訳者に体験してもらえよう、手話通訳と要約筆記、各2ブースずつ設置しました。参加した聴覚障害者には避難者役を担当していただきました。いざというときに遠隔通訳が支障なくできるよう今後も訓練を続けていきます。



関係機関との連携

聴覚障害に関する講演の依頼を受け、職員を講師として派遣しました。

- 9月16日 おかやま言語聴覚の日フェス講演会「聴覚障害者のための手話通訳・要約筆記」
- 9月20日 岡山県消費生活センター「消費生活講座“聞こえについて～聴覚障害者の現状～”
- 9月30日 岡山県立図書館「とことん活用講座“学ぼう！耳が不自由な方とのコミュニケーション”



文化講演会を開催しました

イベントのご報告①

9月17日(日)401会議室で第8回文化講演会を開催し50人の参加がありました。講師は、元犬養木堂記念館長の板野忠司^{いたのただし}氏で、犬養木堂を始め古代吉備の秦氏(百済からの渡来人)に関する事柄など幅広い分野の講演活動をされておられます。演題は「犬養木堂が挑んだ近代日本の光と闇」でした。

木堂翁(犬養毅)は岡山市人初の内閣総理大臣として有名ですが、その子孫の方々にも著名な方が大勢いらっしゃいます。アフリカ難民支援で活躍された作家の犬養道子さんは孫、国連難民高等弁務官の緒方貞子さんやNHK朝ドラに出演されていた女優の安藤サクラさんはひ孫にあたります。

木堂翁は江戸時代の終わり頃、現在の岡山市北区川入^{かわいり}で大庄屋の次男として生まれています。黒船のペリーが浦賀に来航した2年後です。幼い頃から四書五経^{しよごきやう}の素読^{そどく}を受けたりして漢学の素養^{そやう}を身につけます。明治7年20歳の木堂は上京し、慶應義塾で洋学を学び、生活費を稼ぐために新聞社に寄稿を続けます。22歳のときには西南戦争の戦場^{おもむ}に赴き「戦地直報」を発信し名声を博しました。明治23年第1回衆議院選挙が実施され岡山市第三区から出馬し当選、以後19回連続当選を重ねます。大正14年には珍事が起こりました。普通選挙法の成立を機に政界引退を表明した木堂ですが、その補欠選挙で

地元岡山の有権者は再び木堂を当選させてしまいました。やむなく受諾した木堂ですが、先頭に立って活躍することはなく長野県にある別荘(白林荘)で悠々自適に過ごしたと言われます。転機は昭和4年。ときの政友会総裁の田中義一^{ぎいち}が急死し木堂が政友会総裁に就任、昭和6年12月に第29代内閣総理大臣に就任します。同年の9月に満州事変が勃発し軍部台頭が進む中、木堂は景気対策と満州事変の対応に全力を傾けますが、翌昭和7年5月15日、海軍将校らの凶弾に倒れました。

木堂が挑んだのは民主主義に基づく政党政治であり、婦人参政権、選挙年齢引き下げ、比例代表制の導入、平和主義、産業立国です。これらを「光」とするなら、国民自身が「闇」の中にいて意識が低く、その考え方を理解しようとしなかった。木堂の理想は大きな犠牲者を出した戦後にやっと実現することになります。講師は、知性と独立心に優れた木堂ではあるが、理想が高すぎるが故に、人との協調・協同の精神に欠けるところがあつたと思えてならないと言われ、講演を締めくくられました。

多くの方のご参加をいただき活気のある文化講演会でした。



のびのび子どもひろば

イベントのご報告②

8月7日(月)、聴覚障害者センターで「のびのび子どもひろば」を開催しました。子ども(14人)と保護者、ボランティアなど合計29人の参加がありました(うち聴覚障害児・者11人)。

今回は、岡山市北消防署番町分署の消防士3名をおむかえし、消防士の仕事についてお聞きしました。子ども用防火服の試着もしました。消防士用と同じ防火素材でできているので非常に重たくて、着るだけで大変です。これほど重い服を着て消火活動をしている消防士さんはすごいねと言う子どももいました。続いて、駐車場に移動して消防車を見学。消火ホースや吸水装置など搭載機材の説明を受けたり、3階の高さまではしごを伸ばす実演や運転席を見せていただいたりしました。

工作の時間は、金魚鉢の形をした透明の亚克力板に好きな色を塗り、木製の金魚をはり付けた「金魚のネームプレート」を作りました。この他、大型紙芝居やプロジェクターを使った絵本の読み聞かせをしました。



